

Harmoney



SHIGEI MEDICAL RESEARCH HOSPITAL
重井医学研究所附属病院広報誌 ハーモニー

冬

No.168

号

特集

高度急性期病院との連携により

地域に貢献する消化器診療

- 1 ● 消化器がんの早期発見と治療に威力を発揮する消化器内視鏡
- 2 ● 術前化学療法と術後リハビリテーションで地域の食道がん治療を支える
- 3 ● 新薬による肝炎治療を行い、肝がん治療は高度急性期病院との連携で



病院の理念 | 私たちは"真に病院らしい病院"を目指します

病院の基本方針

私たちは生命の尊厳と人権を尊重し、地域の皆様に信頼される病院であるよう努めます。
私たちは皆様に質の高い医療を提供するために知識・技術の向上に努めます。
私たちは感性をみがき、感謝の気持ちを大切に、皆様と感動を共有できるよう努めます。

消化器がんの早期発見と 威力を発揮する

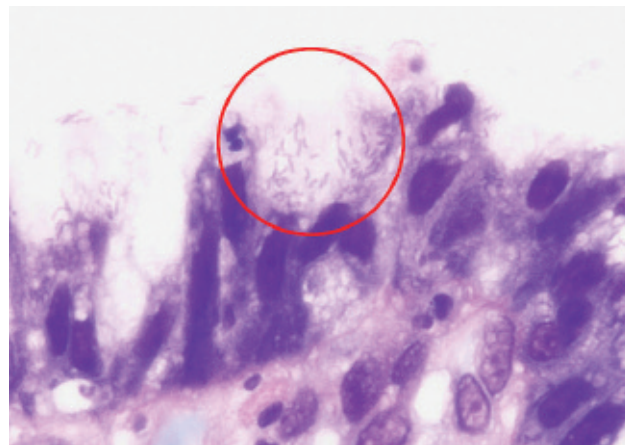
● 多岐にわたる上部消化器内視鏡検査

当院は日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定施設となっており、午前中は毎日、上部消化器内視鏡検査(胃カメラ)を実施しています。この検査は当院の消化器内視鏡を専門とする医師および岡山大学消化器内科の医師が担当しています。機器と診断学の進歩に合わせ、NBI(狭帯域フィルター内視鏡)も導入して、食道の表在がん、咽頭・喉頭等の耳鼻咽喉科領域のがんの早期発見に努めています。症例によっては拡大内視鏡を使用して診断の精度を高めています。さらに、特殊な検査や治療が必要な場合(早期胃がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術等)は岡山大学病院等と連携をとり、患者紹介を行っています。

また、通常の上部内視鏡検査のほかに、内視鏡的止血術、ポリペクトミー(ポリープ切除術)、EMR(胃粘膜切除術)、PEG(胃瘻造設術)、EVL(食道静脈瘤結紮術)、異物除去などの内視鏡的治療や処置を行っています。

● 胃がんの予防に有効なピロリ菌の除菌

最近、胃がんの原因としてピロリ菌の感染が報告され、胃がんの発病予防を目的とした除菌治療も保険適応となりました。(6か月以内の内視鏡検査とピロリ菌の検査の実施が保険適応の条件ですが)上部内視鏡検査で胃粘膜の萎縮と、ピロリ菌の感染が確認されれば、保険診療で除菌治療が可能となっています。ピロリ菌の除菌治療が成功すれば、胃がんの発症リスクが3分の1に減少するという成績が出ています。当院でも積極的に除菌治療を行っています。(逆にピロリ菌未感染の方は胃がんの発症が極めて低いと言われています)



胃の粘膜に住みついたピロリ菌(円で囲まれた箇所)

● ポリープ切除も行う大腸内視鏡

大腸内視鏡検査も週に4回(木曜日、土曜日以外の午後)行っており、大腸ポリープを発見した際には、あらかじめ同意を頂いた方には検査当日にポリープ切除術を行っています。また、腹部の手術後や大腸が異常に長いなどの原因で、全大腸内視鏡検査ができない方には、大腸CT検査(CTを用いて大腸を検査する方法)で大腸検査をすることもできます。(右トピックス参照)

● 診断と治療技術の進歩に対応

当院における消化器内視鏡の検査数は増加してきており、手技もますます高度になってきていますが、日本消化器内視鏡学会認定専門医の常勤医師3名を中心に学会などに参加し、診断や治療技術の向上に努めています。

また、診断能力向上のため、平成12年から画像ファイリングシステムを導入し、定期的に消化器内視鏡カンファレンスを開催しています。

治療に 消化器内視鏡



消化器専門医の西山医師

●苦痛を軽減するような配慮

内視鏡室のスタッフは、何よりも検査を受けられる方の安全を第一に考えつつ、楽に検査を受けていただけるように配慮し、ご希望の方には鎮静剤を使用して、なるべく苦痛を軽減するようにしています。(ただし、鎮静剤を使用する場合は、鎮静剤の注射後、当日の車の運転はできません) また、希望者には経鼻内視鏡(鼻から挿入する細い内視鏡)も可能です。

また、上部・下部内視鏡検査で異常が見つかり、組織を採取した場合は、当院の病理部で検体処理を行い、病理医が診断をつけます。診断結果は、約1週間ですることができます。

*個人からの内視鏡検査の電話予約は原則できませんが、かかりつけ医の先生を通して予約することは可能です。(内科外来で予約を受け付けています)

Topics

大腸 CT 検査(CT コロノグラフィ)

大腸 CT 検査とは

大腸 CT 検査は内視鏡を挿入せずに CT 撮影を行い、コンピューター処理により内視鏡で実際に見ているかのように腸内を観察する検査です。

大腸 CT 検査は患者さんの抵抗感が少なく大腸がん検査の受診率向上を期待されている検査で、CT 装置性能が飛躍的に向上したため施行可能となりました。

右の図1の写真は6mmの小さなポリープですが、くっきりと描出されているのが分かります。

また図2の写真は大腸全体をコンピューター処理した3D画像です。この他にも様々な画像処理が可能です。



図1



図2

大腸 CT の検査方法

まず前処置を行ってから大腸 CT 検査を行います。検査時間は15分程度です。

CT 室では検査着に着替えていただき、大腸に二酸化炭素を機械で入れて、「お腹が少し張ってきたら」検査を開始します。

苦痛はほとんどありません。撮影は、仰向けとうつ伏せで2回行います。

撮影された画像約1000枚をコンピューター解析します。解析にはしばらく時間がかかりますので結果説明は後日となります。



術前化学療法と術後リハ 地域の

Feature

● 当院での食道がん治療

当院では、食道がんの根治手術は行わず、基幹病院で手術を受ける前の術前化学療法、術後の嚥下リハビリテーション、運動リハビリテーション、経腸栄養管理に特化して食道がん治療を支えています。また、再発に対する通所化学放射線治療、がん終末期の緩和治療に至るまで切除再建手術以外の治療のほとんどを行っています。

● 術前化学療法について

食道がんの治療は病期により治療の内容が異なってきます。早期がんであれば内視鏡的剥離術の適応ですが、進行がんでは手術と化学放射線治療が中心となります。当院で食道がん根治術は行っておりませんが、術前化学療法を行っています。化学療法は1ヶ月に1度、計2回行います。手術適応の食道がんで基幹病院を紹介されても2ヶ月先まで予定手術で埋まり、すぐに手術枠確保が困難な場合もあります。患者さんの心理としては1日も早く手術してほしいところだと思いますが、術前の2ヶ月を化学療法に当てることで、再発率を低下させ、心理的に不安要素を軽減することに寄与しています。

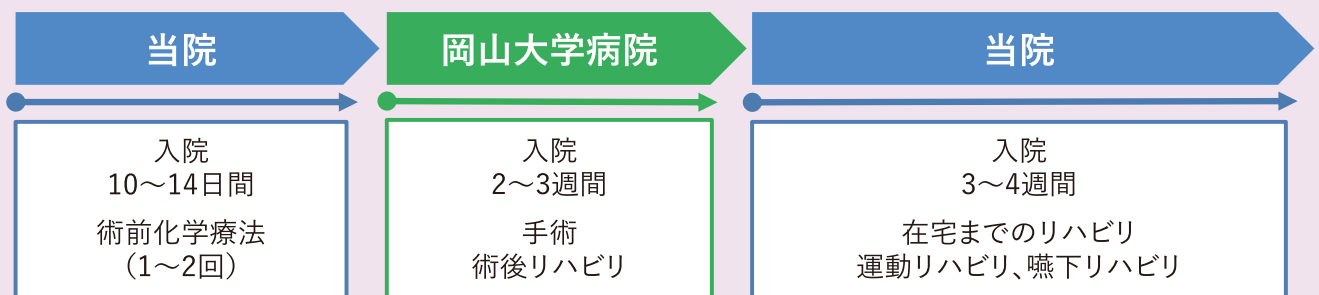


入院棟からリハビリテーション室まで行く際に通る連絡通路

● 術後リハビリテーションについて

食道がん手術の合併症として反回神経麻痺による声のかすれ、誤嚥のリスクが挙げられます。そこで、誤嚥しないためのリハビリテーションが重要になってきます。当院では食道がん術後の嚥下機能評価を嚥下造影で行い、嚥下リハビリテーションを言語聴覚士と管理栄養士のチームが主体となって行っています。

術後管理で最も重要なことは感染症にかからないようにすることです。どれくらいのカロリーを1日に摂取するとやせないか知ることが重要で、基礎代謝量の実測値に1.5倍することで求めることができます。1日必要量が理解できたものの、それをすべて経口摂取でまかなうことができるのかという問題がでてきます。食事摂取量には個



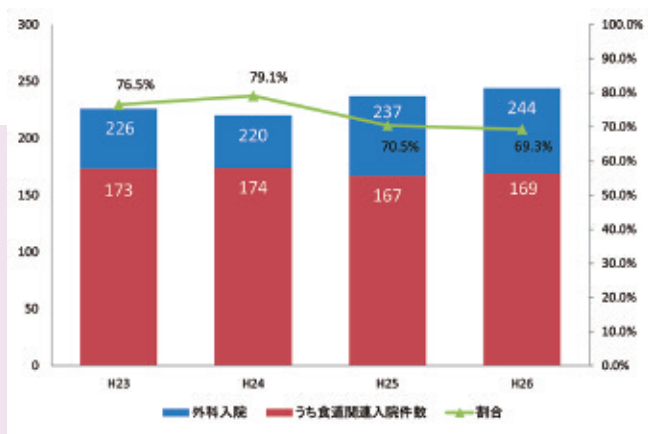
当院の食道がん治療における病院間連携の例

ビリテーションで 食道がん治療を支える

人差があり、半数の方で経腸栄養の併用が必要となります。食道がん術後に徐々に経口摂取量は増加するため、経腸栄養併用は術後2-3ヶ月に限定されることが多いです。経腸栄養指導は見える化して患者さんにもわかりやすく指導しています。

食道がん手術は侵襲が大きな手術のため、従来の開胸手術では離床までに1週間近くかかっていましたが、最近主流になりつつある胸腔鏡下手術では、離床も数日と非常に早くなってきています。胸腔鏡手術では呼吸機能もあまり低下しないため、運動機能低下は少なくなってきていますが、それでも術後筋肉量は減少しやすいため、運動リハビリテーションの介入が必要になってきます。当院では入院棟からリハビリテーション室までは100m近い廊下を経由する必要があり、リハビリテーション室までの移動がいい運動になります。また、屋外には山田グリーンパークがあり、坂道、階段など少しハードなコースですが、往復で30分程度かかるため、ある程度屋内で自信がいった場合には運動リハビリのアドバンスコースとしてご利用いただくことも可能です。

上記の様に、食道がん治療は術前化学療法に始まり、術後各種リハビリテーションを行って退院できるのが一般的です。



外科病棟の入院患者数と食道がん関連で入院の患者数の推移



消化器外科専門医の櫻間医師

● 食道がん治療における地域での当院の役割

基幹病院と連携をとり、術後安心して在宅療養ができるようになるまで、自活支援をチームで行っています。消化器外科手術の中でも、食道がんは胃、大腸がん手術と比較して回復に時間がかかります。在院日数が問題となる基幹病院では在宅に至るまでのジョイントとなる支援病院の存在が非常に重要です。当院は機能分化してその役割を担っています。紹介元の外科医師と良好なコミュニケーションをとり、電話一本でコンタクトがとれる環境を整えており前医から切れ目ない治療を患者さんに提供することが可能となっていることは当院の利点の一つです。

最後に、最近4年間の当院の外科病棟に入院された患者さんの数をお示します。

グラフが示すように当院の外科病棟では、入院患者さんの70%前後を食道がん関連の患者さんで占めています。また、入院患者さんの数においては、以前と比べて若干減少しています。これは、最近食道がん手術の技術が進歩し、術後のケアも自宅で行えるケースが増えていいるからと推測されます。

これからも、機能を特化することにより、基幹病院を支え、地域の食道がん治療にまい進して参ります。

新薬による肝炎治療を行い、 肝がん治療は高度急性期 Feature 病院との連携で

● C型肝炎の新薬治療

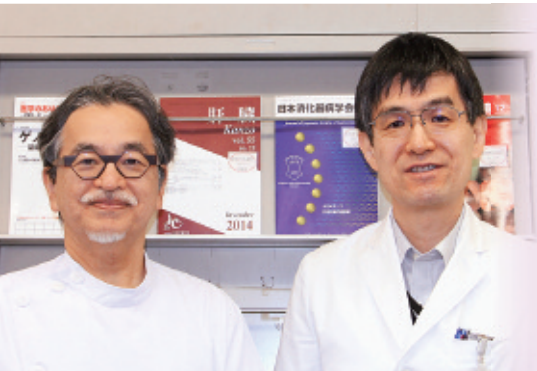
C型肝炎が見つかったから約25年たちました。肝硬変や肝臓がんに行進する可能性のある大変な病気ですが、インターフェロンの注射で治ることがわかり、当院でも多くの患者さんにこの治療を行ってきました。しかし、この注射は高熱、全身倦怠感、食欲不振などの副作用が強い治療で高齢や体力の無さからこの治療を受けることをためらったまま現在に至っている方も数多くおられます。

世界の研究者が肝炎の薬の研究開発の努力を続けてきた結果、2014年から飲み薬だけでC型肝炎を治療することができるようになりました。当院でも2014年9月から「ダクインザ」と「スンペプラ」の2種類の薬を外来で十数人の患者さんに6ヶ月間処方して、ほとんどの人で特に副作用なくC型肝炎ウイルスが消失しました。今年2015年からは3か月間で終了する「ソバルディ」と「ハーボニー」を使った治療が始まりました。値段の高い薬ですが「肝炎医療助成制度」を使えば、月1万円か2万円の自己負担で治療ができます。この制度の申請ができるのは肝臓専門医のみですが、当院には3名の肝臓専門医がおり、「肝炎医療助成制度」を利用した対応が可能です。

● B型肝炎の治療

もうひとつのウイルス肝炎であるB型肝炎も「バラクルード」と「テノゼット」などの飲み薬でほとんどの方の肝機能が正常化しています。また、飲み薬を長く飲まれた

方の一部では血液から完全にB型肝炎ウイルスが消失して、安心して薬を終了した方もいます。



肝臓専門医の副院長 真鍋医師と内科部長 池田医師

● 肝がんの治療

C型あるいはB型肝炎から肝がんを発症された患者さんも当院の外来で診ていますが、肝切除の手術やラジオ波焼灼術などの治療はご本人と相談して、大学病院などの高度急性期病院に紹介して治療していただいています。手術後の通院は1～2か月ごとに当院へ、数か月に1回の高度急性期病院に通院として、密接な連携で切れ目のない治療を行っています。

Introduction

当院の消化器系専門医の紹介

- | | |
|-------|--|
| 真鍋康二 | 日本消化器病学会認定 消化器病専門医・指導医／日本肝臓病学会認定 肝臓専門医・指導医 |
| 西山仁樹 | 日本消化器病学会認定 消化器専門医／日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡専門医・指導医 |
| 池田 弘 | 日本消化器病学会認定 消化器専門医・指導医／日本肝臓病学会認定 肝臓専門医・指導医 |
| 荒木俊江 | 日本消化器病学会認定 消化器専門医 |
| 岡 優子 | 日本消化器病学会認定 消化器専門医／日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡専門医・指導医／日本肝臓病学会認定 肝臓専門医 |
| 藤本さおり | 日本消化器病学会認定 消化器専門医／日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡専門医 |
| 平松 聡 | 日本消化器外科学会認定 消化器外科指導医 |
| 櫻間教文 | 日本消化器外科学会認定 消化器外科専門医・指導医／日本消化器外科学会認定 消化器がん外科治療認定医 |

1

岡山市南消防署と合同で
消防訓練を実施

11月7日(土)に岡山市南消防署との合同で消防訓練を行いました。

訓練では岡山市南消防署と地域消防団の福田第2分団より、消防車4台、救急車1台が来院し、夜間に「入院棟地下1階の厨房より火災が発生」という想定で行われました。当院職員による避難誘導、南消防署と福田第2分団のポンプ車からの放水、消防隊によるガスマスクをつけての逃げ遅れた者の救出など、本番さながらの緊張した訓練となりました。

また、消火活動において最も重要な技術の一つである、入院患者さんの避難誘導も大変スムーズに行うことができ、短時間のうちに安全な場所に避難していただくことができました。

今後も訓練を通して消防署、消防団の連携強化と消防技術の向上を図っていきます。



2

「糖尿病予防のための展示会」を開催

11月13日(金)から21日(土)まで外来棟1階エレベーターホールで「糖尿病予防のための展示会」を開催しました。糖尿病の予防や治療につながる食品のサンプルや献立など多数展示しました。また13日と14日には、「栄養相談」「健康相談」「健康チェック」などが行える区画を設け、当院の管理栄養士、看護師、臨床検査技師、理学療法士が、皆様のご相談に当たりました。

当院では、皆様の健康づくりにお役に立てるよう年2回このような栄養展示会を開催しています。展示会は、栄養管理部とその関連部署が毎回趣向を凝らして、わかりやすく展示しています。次回は来年の3月に「世界腎臓デー」にあわせ「慢性腎臓病予防のための展示会」を開催する予定です。たくさんのご参加をお待ちしています。



公開講座

すこやかに生きるために

Open Lecture Schedule

入場無料／申込不要
駐車場有／無料ミニ健診



2016

1/23 土

Lecture 1

13:30-15:00

少しでも健康に過ごして
いくための運動と予備知識

～あなたの健康はあなたが守る～

講師 | 重井医学研究所附属病院
リハビリテーション部主任 吉田 朗

2/27 土

Lecture 2

13:30-15:00

試験管で「生命」を
育てて半世紀

～私は何か貢献したのだろうか～

講師 | 創和会 顧問
重井医学研究所 名誉所長
沖垣 達



Information 会場 & お問い合わせ

重井医学研究所附属病院
重井医学研究所 講義室
〒701-0202 岡山市南区山田2117
TEL 086-282-5311 / FAX 086-282-5345

予 定 表 外 来 診 察

Outpatient care schedule

- 受付時間** 8:30～12:00 (再診の方は、再来受付機にて午前8時より受け付けています)
13:30～17:00
- 診察時間** 9:00～12:00
14:00～17:00 予約専門外来は13:30から
- 休診日** 木曜・日曜・祝日
(夜間や休日の急病の場合は、あらかじめ電話で対応可能かどうかのお問い合わせをお願いいたします)

		月	火	水	木	金	土	
内科	午前	糖尿病・肝臓 (生活習慣病)	真鍋 康二 (総・肝・糖)	大森 一慶 (総・糖・腎)	荒木 俊江 (総・糖)	休 診	真鍋 康二 (総・肝・糖)	真鍋 康二 (総・肝・糖)
			大森 一慶 (総・糖)		池田 弘 (肝)		荒木 俊江 (総・糖)	
	腎臓	福島 正樹 (腎)(紹介・初診のみ)	—	福島 正樹 (腎)	福島 正樹 (腎)		福島 正樹 (腎)	
	消化器	藤本さおり (総・消)	西山 仁樹 (消)	岡 優子 (総・消)	岡 優子 (総・消)		藤本/岡 (総・消)	
★総:総合内科 腎:腎臓 肝:肝臓 糖:糖尿病 消:消化器 ★健診は、西山仁樹(月・火・水・金・土)が担当しています								
午後	一般外来	交代医師	交代医師	交代医師	休 診	交代医師	交代医師	
	専門外来 (予約)	(肝臓・ 生活習慣病) 池田 弘	(糖尿病) 真鍋 康二 荒木 俊江	—		—	—	
名誉院長外来	午前	—	腎臓・内科一般 瀧 正史	—	休 診	—	—	
小児科	午前	瀧 正史	虫明 亨祐	虫明 亨祐	休 診	虫明 亨祐	瀧 正史	
		虫明 亨祐	今村 昌司	今村 昌司		川田 珠理	虫明 亨祐	
午後	交代診療 予防接種	交代診療 予防接種	交代診療 予防接種	交代診療		交代診療 予防接種		
小児療育	午前 完全予約制	今村 昌司	川田 珠理	川田 珠理		今村 昌司	今村 昌司	
	午後 完全予約制	今村 昌司	川田 珠理	赤池 / 川田	今村 / 川田	今村 昌司		
★小児療育は初診の方は完全予約制(火曜・水曜午前中)です。予め電話での予約をお願いします。 他の曜日に来院されてもお帰りいただく場合がございます。ご了承下さいますようお願いいたします。								
外科	午前	櫻間 教文	平松 聡	平松 聡	休 診	平松 聡	平松 聡	
ダイアライ シスアクセス 専門外来	午前	櫻間 教文	櫻間 教文	櫻間 教文		櫻間 教文	櫻間 教文	
★ダイアライシスアクセス専門外来は、完全予約制です。予め電話での予約をお願いします。 ★時間外でも可能な限り対応いたします。電話でお問い合わせ下さい。								
泌尿器科 (予約)	午後	—	—	—	休 診	岡山大学	—	
皮膚科	午後	—	太田 知子	太田 知子	休 診	—	—	
眼科	午後	第4月曜日 岡山大学	—	—	休 診	—	—	

表 紙 に つ い て

消化器がんの診断には、病理診断が必須です。通常、病理医が内視鏡で採取された病変部の組織を顕微鏡で観察して悪性の有無、がんの種類、がんの進行度などを診断します。それによって、患者さんの今後の治療方針が決定されます。
 当院でも、臨床検査技師(写真右)が標本を作製し、病理医(写真左)が診断を行っています。

I n f o r m a t i o n



重井医学研究所附属病院
 〒701-0202 岡山市南区山田 2117
 TEL 086-282-5311 / FAX 086-282-5345
<http://www.shigei.or.jp/smrh/>



関 連 施 設
 しげい病院
 重井医学研究所附属病院
 重井医学研究所
 岡山しげい訪問看護ステーション
 岡山しげい居宅介護支援事業所

倉敷しげい訪問看護ステーション
 倉敷しげい居宅介護支援事業所
 重井薬用植物園
 倉敷昆虫館
 健康増進施設 はあもにい倉敷